

貧困・苦境児童を支える

# FOREST EYE ACTIVITY LETTER

年次報告書

2018



FOREST  
Bless to you ...





## MISSION

- ・ 現在(いま)を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

## VISION

- ・ どんな子どもたちにも平等に夢を
- ・ どんな子どもたちにも未来への希望を
- ・ どんな子どもたちにも無限の可能性を
- ・ どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

## CORE VALUE

- ・ 子どもたちの可能性を大切にします
- ・ 人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
- ・ 自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
- ・ 最善の方法を常に探求します

# CONTENTS

- 01. MISSION / VISION / CORE VALUE
- 02. CONTENTS
- 03. 団体概要
- 04. 2018年度総括
- 05. 国内事業
- 10. 海外事業  
1st Project
- 12. 会計報告

特定非営利活動法人 FOREST

年次報告書

# 2018

**FOREST EYE  
ACTIVITY LETTER**



- チェイホーム 田植え -

カンボジアの食・生活に欠かすことの出来ないお米。

カンボジアのお米消費量は世界第二位!そして日本人の約3倍を消費しています。

農林水産業は、国内総生産の約30%を占めており、農業が重要な産業となっています。

生産時期は雨季作が基本で、多くが天水に依存し作られています。もちろん、チェイホームにも田んぼはありますが、この田んぼの農作業に関しては、子供たちだけで「田起こし～稲刈り」までこなしています。かなりの重労働で、このシーズンの男の子たちはみんなへろへろになるほど。

そんな子供たちが手間暇かけて育てたチェイのお米はとっても美味しい仕上がりになっています。

## 団体概要



世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest(フォレスト)は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、生まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないように、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

## 社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forestは、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

## ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。

そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

本部：〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6

支部：〒8150-042 福岡県福岡市南区若久6-24-8

**T E L** 011-272-7716

**F A X** 011-272-7715

**E - M A I L** info@forest-japan.org

**W E B** <http://forest-japan.org/>

設 立 日	2013年12月3日
法 人 設 立 日	2014年4月8日
代 表 理 事	小野塚 舞
理 事	用川 則幸 / 町田 武文 賀來 友麻 / 岡部 憲幸
監 事	植西 圭

## 2018年総括

2018年度も皆さまからのあたたかいご支援を頂きまして本当にありがとうございました。

1st プロジェクトであるカンボジア孤児院の運営支援も3年が経過し、2018年は「卒院」「法改正による行政指導対応」がメインの1年となりました。今回、これらの出来事を通してチェイホームや子供たちの将来（卒院）について、話す機会や考える機会が増え、より一層絆を深かめることの出来る1年になりました。これからも子供たちの成長と共に「何」が「今必要」なのかを常に考え対応していきたいと思えます。

国内事業では、前年に引き続きチャリティイベントの開催や沢山の企業様のご支援を頂戴し、児童養護施設の子どもたちへ物品支援を実施する事は出来ましたが、胆振東部地震の影響により、モエレ沼芸術花火の鑑賞招待は残念ながら中止となりました。しかし、招待予定であった児童養護施設の子供たち、またその他の札幌市内の児童養護施設の子供たちも大きな怪我等なく元気に過ごしているということでとても安心しております。

3rd プロジェクトである就労支援事業では1月で1年を迎えることが出来ました。

今年1年はメンバーさんがどんな事にやりがいや頑張りを感じ、どんな時に体調や精神面が辛いと感じるのか、この就労支援事業を通じて知ることが出来ました。これからも経験を積み重ねることで1人でも多くの障がい者の方の「キッカケ」や「チャンス」「可能性」へと繋がっていけるよう進めていきたいと思っております。2019年も国内外問わず応援をよろしくお願い致します。



# 国内事業

# 2nd PROJECT JAPAN

ONE PIECE FOR PEACE CHARITY-SPORTS 物品支援



## ONE PIECE FOR PEACE

今期も新たにご協力いただけた企業さまが増え前年度より1,050Piece 多い 32,050Piece を集めることが出来ました。毎年少しずつではありますが、応援して下さる企業様が増え、沢山の方に継続したご支援を頂けることに感謝しております。



## CHARITY-SPORTS

「楽しい・新しい出会い」を支援に繋ぐ

8月6日フォレストの第五回チャリティゴルフコンペを開催いたしました。天候にも恵まれ、沢山の方にご参加頂くことが出来ました。フォレストコンペでは、どの参加者さまにもチャンスがあるよう、昨年からはハンディ計算を新々ペリア方式にて行っております。また、たくさんの企業さま、プロゴルファーの方からご協賛を頂き素敵な賞品や参加賞を揃える事が出来きたため、表彰式では皆さんドキドキしながら楽しんで頂けたのではないかと思います。これからも参加者のみなさま、企業の皆様とこのチャリティゴルフコンペを通じて新たな縁や支援が広がっていけるよう進めて参りたいと思います。



### 【開催内容】

開催日：2018年8月6日 参加人数：76名 会場：ハッピーバレーゴルフクラブ チャリティ金額：149,556円  
協賛企業様：河野晃一郎プロ、塚田陽亮プロ、内藤寛太郎プロ、入屋、株式会社アンジェスソレイユ、株式会社キープグループ、株式会社こがね、株式会社コンサドーレ、株式会社札幌大成、株式会社シティグループ、株式会社プロスパー、株式会社 MOHRD、クワハラ食糧株式会社、寿司数馬、ステーキハウスブッチャー、チキンダイニング 隠りど、パーティースタジオハリウッド、美・フレイバー、ピッコロモデナ、北海道家具、ME GUM I、モエレ沼芸術花火実行委員会・株式会社 HandMade、有限会社フォー・ツリー、リアクローゼット、株式会社ジャパンビバレッジ北海道、株式会社丸泰オー・エム・アイ、有限会社大道工業 (五十音順)

# 社会教育・健全育成の推進Project

モエレ沼芸術花火 2018 で子供たちと感動の共有と心に残る思い出を。

現在、日本の子どもたちの間では様々な格差が生じています。フォレストでは芸術や文化、スポーツ等に触れる機会や社会との繋がりを持つ機会が少ない子どもたちに対し、そうした機会を増やしてもらいと思い 2015 年より児童養護施設等で生活を送る子どもたちを対象に 2 つの機会を支援しています。1 つは「モエレ沼芸術花火鑑賞招待」そしてもう 1 つは「世界一楽しいゴミ拾いのボランティア参加」です。毎年招待が決まった施設の子どもたちはどちらもとても楽しみにしてくれており、子どもたちと直接触れ合い話すことの出来る貴重な機会となっております。

しかし、残念ながら 2018 年 9 月に発生した台風 21 号により、モエレ沼公園の木々等が倒れ施設内に被害が発生、そして 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震により、北海道全域の停電（ブラックアウト）や公園の閉鎖などが相次ぎ復旧作業が難しく、開催中止のご報告頂きました。楽しみにしてくれていた子どもたちには残念ですが、誰もが楽しく安全に見れる事が第一優先ということを考えて決断頂いたものだと思っております。今年度は残念でしたが、これからもこうした機会を繋いでいけるよう進めて参りたいと思います。



## 物品支援

チャリティスポーツイベントを通じてフォレストでは毎年児童養護施設へ物品支援を行っていますが、今年は社会福祉法人札幌療育会 ノビロ学園、公益財団法人鉄道弘済会児童養護施設 札幌南藻園の子どもたちに物品支援を実施することが出来ました。ノビロ学園の子どもたちには玩具や DVD プレーヤを、札幌南藻園の子どもたちには DVD、玩具、そして本棚を支援させて頂きました。本棚の組み立ては高等養護学校の木工科に通う高校 1 年製の男児が最初から最後まで上手に組み立ててくれたそうです。こうして、沢山の方から頂いた支援で施設内の子供たちがコミュニケーションを更に深めることができ、楽しんでくれているという声を頂けるのを嬉しく感じております。私達に出来ることは小さな一つかもしれませんが、これからも相手に寄り添った形で出来る支援を目指して行きたいと思っております。





# 国内事業

# 3rd PROJECT JAPAN

就労継続支援 branch for pro

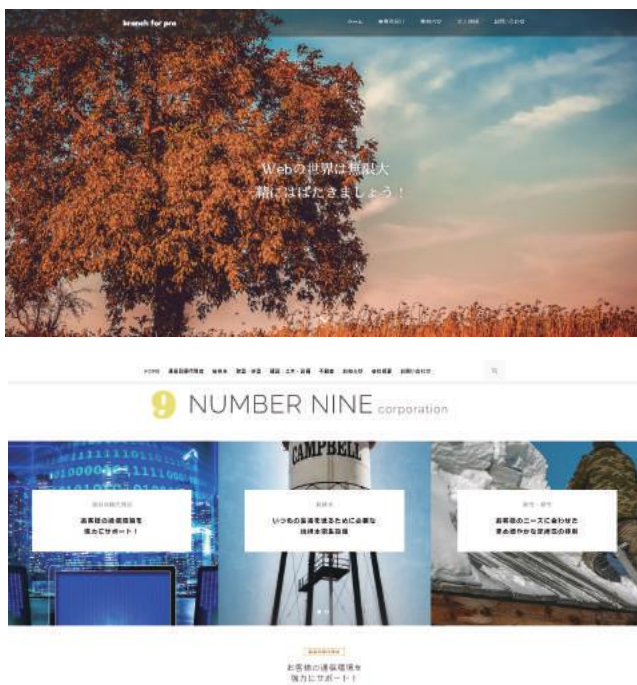


「障がい者の自立」を目指した支援を

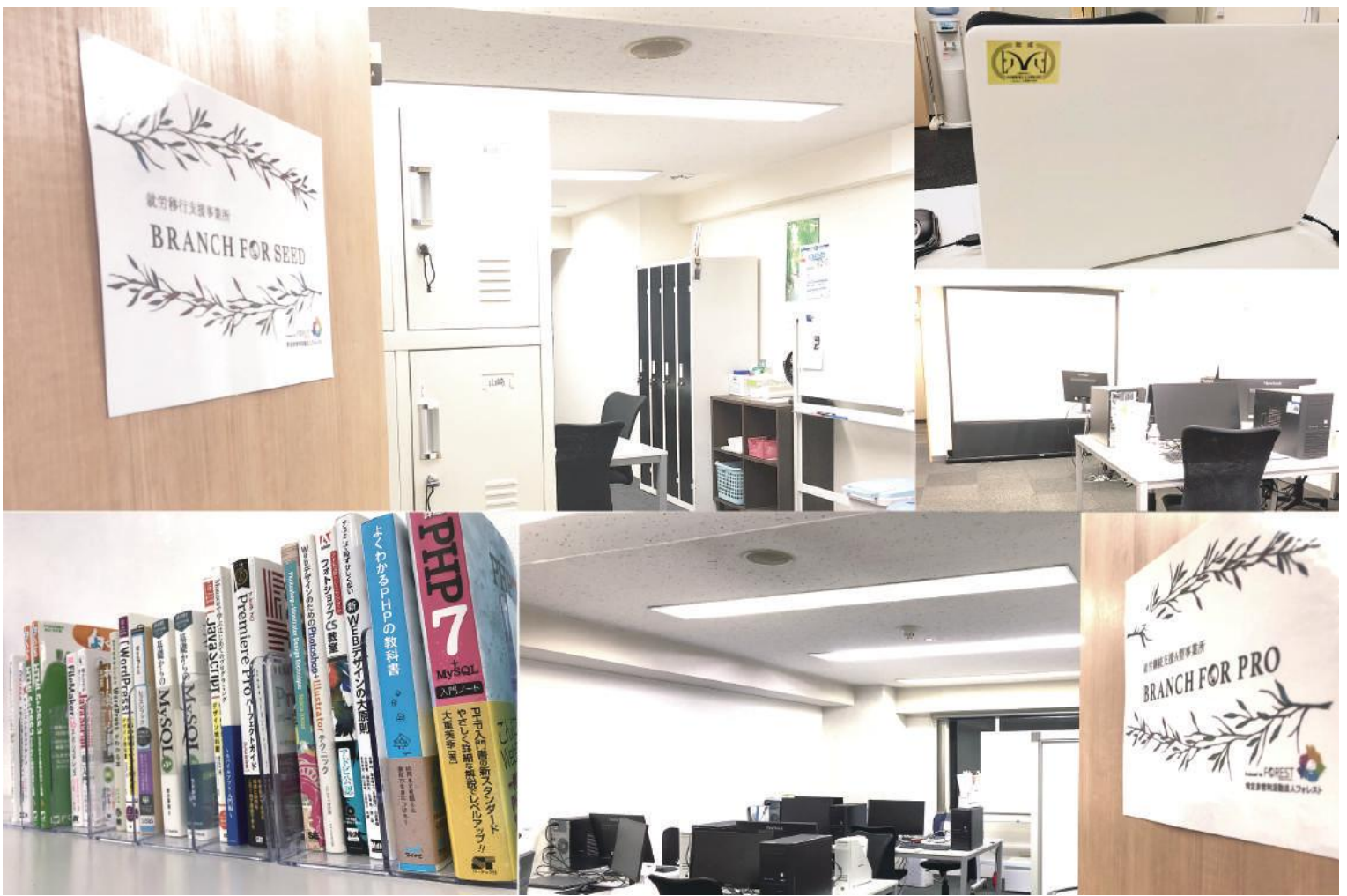
障がい者の自立を目指した就労継続支援事業所は2019年1月で無事1年を迎えることができました。この支援事業プロジェクトは、生まれながらに身体に障害を持っている人や現代の環境下で精神に障害を抱えてしまった人たちも「環境や境遇に制限されずチャンスをつかむ事ができ、実りある輝いた人生であってほしい」と思い、出来るだけ一般就労に近い形の就労継続支援事業所を目指し進めています。

事業内容は「経理作業」や「WEB」に関するパソコン操作が主となっており、どの企業でも必要とされる技術を身に付けてもらうことを目的としています。今年度はパソコンや事業所の設備資金として北海道労働金庫さま、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団さまから助成を受けることができました。また、その他の企業さまからもホームページの製作依頼や広告デザインのご依頼を頂き、勉強と実践を通じ事業所も利用者さんもそれぞれがスキルアップすることの出来た1年となりました。私達の就労支援事業所を通じて一人でも多くの方が技術を習得し、社会の一員として自信や輝きを取り戻し、自立(自律)へと向かうことが出来るよう支援を進めて参りたいと思います。

## HP制作一例







## branch for pro • branch for seed



ランチをより沢山の方に知ってもらため、利用者さん達で一生懸命考えホームページを作成しました。



ランチのメンバーさん達と親睦会を開催しました。



公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団平成三十年度助成金目録贈呈式に参加してきました。

【事業所情報\_就労継続支援 A 型事業所 branch for pro】



事業内容：WEB・経理関係  
定員：10名 ※3月末現在

【事業所情報\_就労移行支援事業所 branch for seed】

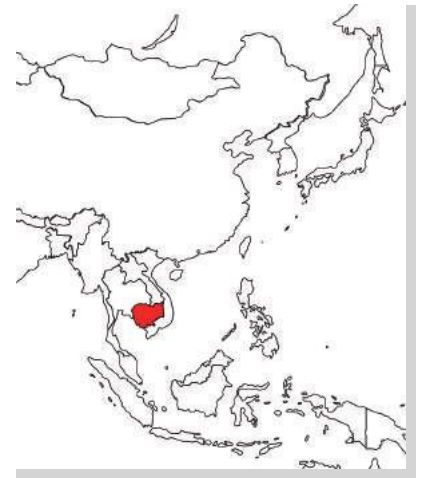


事業内容：WEB・経理関係  
定員：8名 ※3月末現在

# 海外事業

# 1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



子どもたちの 教育・健康・成長が守られる 成長支援活動

2018年4月時点では19人だったチェイホームの支援ですが、2019年3月までに5人が卒院し、現在14人の子供達を支援しています。公立の学校に通いながら、平日は英語、週末は日本語の教育を孤児院で実施するなど、基本的な教育方針や自立に向けた支援方針に変更はないものの、孤児院を取り巻く環境の変化と子供の成長に伴う変化など、今年度もたくさんの変化がありましたのでご報告いたします。

## 孤児院支援「チェイホーム」

### ●チン (Ms. Peab Chhing)



高校を途中で休学して今年で2年目に入りましたが、学校の教師も含めた数回の面談を通して本人に復学の意味は芽生えておりません。結果として現在は半スタッフのような立ち位置で孤児院にて生活しており、家事に加え幼児の英語の授業も担当してくれています。2019年の1月には孤児院を卒院し親戚に引き取ってもらうとの話も持ち上がりましたが、本人の意思と親戚の意向から無期延期となりました。この前後は特に感情が荒れた時期もありましたが、これ機会を期に本人とも面談を繰り返したことで色々

考えるところがあったようで、生活態度などにも改善が見られました。ただし彼女は頭も良く感性も豊かな良い面がある反面、好不調にムラがあり(学校在学中から成績の好不調の波がとても大きかった)、それが私生活でも課題となっています。私個人としては「彼女の甘さ」を克服するためにも近い将来社会に出て色々経験を積むべきだと考えておりますが、その準備として今年度は心の成長に期待し、促しができればと考えております。

### ●ソチータ (Ms.Sok Socheata)



孤児院で一番真面目なソチータは、今年から高校生になりました。中学の卒業試験に望むにあたり、昨年度は特に勉強に励みました。

彼女は勉強もお手伝いも自主的に取り組む優等生である反面、少し内向的で自分の意見を主張することが苦手というのが課題で、その結果として周りに流されやすいという一面もあります。良い友達や良い環境に恵まれれば良いのですが、逆の環境に入った時にも「良いものと悪いもの」を自分で見極め、いざという時には自分の意見をしっかりと

主張できるように成長してくれることを願い、応援していきたいと思っております。

●コン (Mr.Sok Ou Khong)



孤児院で一番日本語が上手で、将来は日本語の通訳になりたいというコン。今年度から有料の授業にも参加し、勉強に励んでいます。9月に卒園を希望し実行したことがあったが、「外では十分に勉強ができない」と謝罪して戻ってきた経緯があります。

戻ってきてからは以前より更に勉強には励むようになりましたが、家事が多少おろそかになっているように感じています(言えば問題なく家事も取り組む)。

日本語の通訳を目指すのであれば、勉強だけでなく人とのつながりや人間性が大切になるので、今年度は勉強と同時に視野を広げるための応援もしたいと思います。

●ヒン (Mr.Peab Leheang)



寡黙ですが心優しく親切で、家事などにもよく励んでくれるヒンは、今年度から有料の授業(カンボジアでは一般的に行われているもの)にも通い、勉強に励んだ結果、成績も徐々に向上しています。それに伴い、彼の口から将来の夢や目標を口にする機会(現在はIT系の仕事を希望しているが、同時に「日本に行きたい」とも言っている)も増えてきました。まだまだ目標も安定せず、行動も十分に伴っているとは言えませんが、現状の夢や目標を掲げる傾向は、色々な見識が増えてきたことや、自信がついてきた証であるとポジティブに見守っています。

今年度は自分の掲げた夢や目標を達成する為に、何が必要で具体的に何をすべきか一緒に考え、行動を促す応援をしたいと思っています。

●チョモラウン (Mr. Sok Chomreun)



足に障害がある(後天的で原因不明)チョモラウンは、昨年度は症状が思わしくなく、痛みから学校にいけなだけでなく、眠れない日もしばしばありました。昨年度も支援金の中から病院に行くなどしましたが、大きな改善は見られず、痛み止めの薬も年々効きにくくなってきているのがとても心配です。現在、家畜の牛を売ってタイの病院に連れて行くことも検討していますが、(限られた資金の中で)劇的な改善は見込めないかもしれません。そんな中でも勉強だけでなく家事にもできる範囲で積極的に協力するなど

する彼には、まずは痛みの症状を緩和する方法を何とかして見つけてあげたいと希望しています。

●ナロン (Mr. Sok Narong)



小さい時から障害を持ち、半身が上手く動かさないナロン。言葉もスムーズに出ないことから、どうしても皆の輪の中から外れて一人であることも多くなってしまっていますが、声をかけたりカメラを向けたりすると嬉しそうに伝えてくれるなど、人懐っこい性格の持ち主でもあります。ただカンボジアの現状では、彼のような障害を持つ人が活躍できる場所は少ないこともあり、将来のビジョンは描けずにいるのが正直なところです。基礎学力は低い(数を数えたり文字を書くことができない)ものの、側で聞いていただけで日

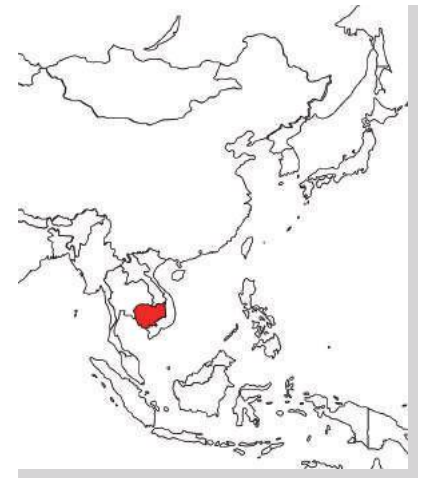
本語の歌を覚えていたことがあるなど、記憶力が良いように感じることもあり、適正に沿った教育できれば伸び代はあります。また年齢が上がると共に、上手くできないことへの苛立ちを見せることも増えてきたので、何か集中できるようなものを見つけて、自信をつけさせてあげられればとも思っていますが、現状はまだ見つかっておりません。



# 海外事業

# 1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



## ●メタ (Mr. Sok Mata)



昨年度で外見的には急激に大人っぽく成長したメタですが、元来の子供っぽい性格は変わらず、相変わらず家事も勉強もそこそこに遊び中心の生活です。今年は卒業試験の年であるにも関わらず、残念ながら成績も芳しくありません。ただしそんなメタを慕う子供達は多く、小さい子供からもよく慕われ面倒もよく見てくれています(一緒に遊んでいる)。加えて身体に障害を持つナロンなどもメタを慕っており、ナロンが悩んだ時にはメタに相談するなど、人間関係の潤滑油的な役割を果たしてくれています。そんな彼の良

さを生かした進路を見つけてあげたいところですが、楽観的な性格もあり、進路など真剣に考える兆しは見えていません。今年度は卒業試験に向けて勉強を頑張ってもらおうと同時に、何か目指すものなどを見つけるきっかけを作ってあげられればと思っています。

## ●ソピット (Sok Sophit)



絵を描くのが好きで(デザイナー志望)、踊りも歌も上手なソピット。今年度は中学の卒業試験の年になります。昨年度から現在まで、しっかりと勉強に励んでいるので無事に卒業してくれることを期待していますが、身体が弱いこともあり、昨年度も定期的に体調を壊していたが少し心配材料ではあります。卒業試験が無事に終われば、彼女の好きな絵の書方を教えてあげるなど、将来に向けた努力を促したいと思っています。

年頃を迎え定期的に思い悩むこともあるようですが、都度相談してくれているので、今年度もしっかりと向き合いフォローしたいと思っています。ちなみに以前は爪を噛む癖があったのですが、昨年度でそれは改善しております。

## ●サムナン (Mr. Sok Somnang)



少し内向的ですが、年齢より大人びて見えるサムナン。一時期プノンペン(Phnom Penh)の学校に通わせていましたが、環境に馴染めず、昨年度からコンポンスプー(Compsoneu)の学校に通うことになりました。悩みなど本心を話すことが少なく、推測でしかありませんが、孤児院内でも年の近い子供より年上の方が仲が良いことから、同世代の子供とは少し違った価値観を持っているのかもしれませんが、また大人の顔色を伺うような印象を持つこともあるので、これから多感な時期に入っていく前に、しっかりと家族(孤児院)や友達との絆を感じてもらい、相談がしやすい環境を作りたいと思っています。また成績は中レベルではあるものの、頭の良さを感じる瞬間も多く見られますので、本人の努力次第で大きく伸びる可能性もあると思っています。

●チャンブルティ (Mr. Vong Chanrithy)



孤児院の管理者 (マナビーさん) の 2 人いる実子のひとり。幼い頃は喘息など身体が弱かったこともあり、マナビーさん曰く「甘やかせて育てた結果少しワガママで頑固に育ってしまった」と言っています。しかし私から見ると昨年度で随分とお兄ちゃんらしく成長してくれたように感じています。また昨年度の大きな変化として英語の上達が挙げられますが、現在は英語のみで簡単なコミュニケーションが成立するまでに成長してくれました。この成長は彼の持つ積極性 (悪くとればそれがワガママに見えることもある)

の賜物で、孤児院を訪問してくれたゲストにも物怖じせず、自分から積極的に英語でコミュニケーションをとる姿勢は素晴らしいと思っています。彼には「自分の非や間違いを認めるのが苦手」という課題も感じますが (それがマナビーさんの「ワガママ」や「頑固」という評価になる)、適時フォローしながら引き続きチャレンジを続けてもらえればと考えております。

●レサー (Mr. Sok Raksa)



孤児院のやんちゃ坊主 2 人組 (レサー & レサット) の一人で、相変わらず勉強もお手伝いも「めんどくさい」と逃げがちです。その度に怒ったり、褒めたりしながらも、なんとか頑張ってもらっています。特に褒めてあげた時にはとても嬉しそうに頑張ってくれるので、当面は褒めて伸ばしてあげたいと思っています。昨年度は学校に行く前の身支度を自分でできるようになるなど、緩やかではありますが成長を見せてくれています。喜怒哀楽をストレートに表現するなど、とても子供らしく健やかに成長してくれていると感じ

ていますので、今年度もこのまま元気に成長してくれることを期待して応援したいと思っています。

●レサット (Mr. Sok Raksi)



孤児院のやんちゃ坊主 2 人組 (レサー & レサット) の一人で、基本的には先に書いたレサーと似た印象ですが、レサーが慎重派だとするとレサットは知識欲やチャレンジ精神がより強いように感じています。ただ鉛筆など文具をお菓子に変えてしまったりするズル賢さを見せたり、怒った時の気性の激しさなどを見るにつけ、少し気になる点もあるのも正直なところ。好意的に言えば、彼は「何か強い意思を持っているのではないか?」と期待も感じていますので、それが良い形で成長できるよう、見守っていくつもりです。

●カニタ (Ms. Sok Konitha)



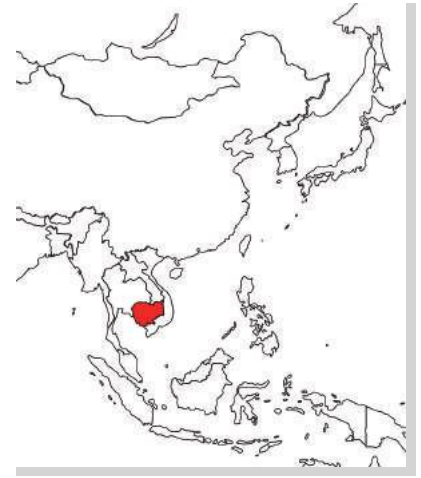
カニタはクラスでも成績 1 番で、村でも評判になるほど頭が良いと言われています。中でも算数が得意ですが、算数に限らず宿題も言われなくても樹種的に取り組むなど、その学習姿勢が成績に反映しているのだと思います。また孤児院では同世代のレサー、レサットの男の子と遊ぶことが多いので、負けん気も強く、たくましく育てられています。これはカニタには限ったことではありませんが、彼女の勉強意欲や好奇心を広げるため、今年度は課外学習など外の世界を見せてあげる機会を増やしてあげたいと考えて

います。また現在は日本語の教育は挨拶程度のものしか教えられていませんが、こちらも段階的に導入し、早い段階で日本に興味を持ってもらえるよう応援したいと考えています。

# 海外事業

# 1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



## ●サンアン (Mr. Vong Sothearith)



孤児院の管理者（マナビーさん）の2人いる実子のひとり。兄のチャンブルティと同様に頑固で負けず嫌い（自分の非を認めるのが苦手）な一面もありますが、最近では自分より年下の子供には譲ることができるようになるなど、少しずつお兄ちゃんとして成長を見せてくれています。頭が良く理解が早いのですが、慎重な性格のせいか長く幼稚園に行くのを拒んでいました。しかしピットの検診的な協力もあり、つい最近からようやく幼稚園に通い始めました。これにより彼の社会が広がり、より大きく成長してくれることを期待しています。また彼にも早い段階で日本語や英語などの外国語の教育を取り入れ、実兄と同じように積極的に取り組んでくれることを期待しています。

## 【2018年度の活動記録】

### ● 2018年4月

クメール正月にて、支援者の木村様より頂いたスピーカーを届け、大いに盛り上がりました。また支援金より新たにカバンや靴などを購入しました。



### ● 2018年5月

支援者の木村様ご一行のご訪問。今回もたくさんのお土産をいただきました。



### ● 2018年8月

支援者の木村様ご一行のご訪問。たくさんのお土産と共に、現役の小学校の先生（本垣内様）をお連れいただき、特別授業を実施いただきました。



### ● 2018年9月

カンボジア在住の井上様ご一行より、沢山の服などの物資をいただきました。





●2018年10月

他団体(バナナの会様)の支援にて、飲料水用のタンクに直接配管をつなぐことで、井戸水が飲めるように設備拡張していただきました。



●2018年10月

プチュン・バン(お盆)に支援金からパーティの実施と、新学期に合わせ新たに制服を新調しました。



●2018年12月

チンの卒院(結果は残留)にあたり、子供達とたくさん話し合いをしました。



●2019年1月

支援者の木村様の会社の皆様のご訪問。たくさんの支援物資と共に、長い間希望していた洗濯機をいただきました。



●2019年2月

創業者のチェイお母さんの五回忌とソティの一回忌をおこないました。



昨年度は、5月から2回に分けて計6名の子供が卒院しましたが、悔やまれることはその2度とも、現地スタッフを含めカンボジア人の管理者にも何も告げることなく子供達が出て行ってしまったことです(内1名はすぐに戻ってきました)。その後も2名が卒園を希望するなど(共に結果としては卒園には至らず)、昨年度は年間を通して子供達と深刻な話題で向き合う機会が自ずと多くなりました。今回の卒院を機に孤児院に残った子供達には2つの事を伝えました。「社会に出て自立することは良いことだが卒院の仕方(共に感謝し関係を続けられるよう)が重要であること」「社会に出て行くまでに孤児院でしっかりとした準備が必要なこと」。また、昨年度は法改正に伴う行政指導への対応も必要となりました。管理者への負担は増える反面、子供の人数が減ったことが原因で他団体の支援も減少するなど、逆境が多く続きました。これらの出来事は、フォレストやチェイホームそして残された子供達にとって辛いものでした。しかし、その機会ごとに子供や大人たちとじっくりと話をする機会が設けられたことで、関係はより深くなったと感じています。卒院した5名に関しても、連絡は取れており、販売店のスタッフをするなどして頑張っているようです。こちらも引き続き陰ながら見守っていきたいと考えております。

また現在高校2年生の子供が3名おり、その後も1年生が1名、中学3年生が2名と続きます。順当に行けば2020年には就職(もしくは大学進学)を迎える子供がおりますので、孤児院の卒院の準備も進めなくてはなりません。彼らが高校卒業後どのように歩むのか、カンボジアの学校では進路相談などありませんので、それも今年度は本格的に話し合う必要があります。過去チェイホームを卒院した子供達はたくさんいますが、残念ながら定期的に顔を見せたり、働いたお金を支援したりする活動はありませんでした。これから卒院する子供達には、進路指導を通して孤児院やそこで出会った人達とのつながりを大切にする事の重要性を伝え、自分たちで孤児院を守っていけるような大人に成長してくれることを期待しています。このような流れができれば、孤児院が自立に向かうだけでなく、その姿を見た小さな子供達にも良い影響を与えてくれるものと確信していますので、それに向けた活動を今年度の軸に据えたいと思っております。



**FOREST**  
Bless to you ...